



THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO KITA

c/o TOKYO YMCA 2-2-20 TOYO KOTO-KU TOKYO 135-0016, JAPAN Tel.03-3615-5562
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS. CHARTERED 1980



2020年 7月 No.472

Jacob Kristensen (デンマーク) 国際会長主題:

「VALUES, EXTENSION, and LEADERSHIP」 [価値観、エクステンション、リーダーシップ]
 スローガン: 「TRUST IN THE RIVER OF LIFE」 [命の川を信じよう]

David Lua アジア太平洋地域会長主題: 「Make A Difference」 [変化をもたらそう]

スローガン: [奮い立たせよう]

板村哲也 (東京武蔵野多摩) 東日本区理事主題: 「"Let' s enjoy Changes"」 [変化を楽しもう]

副題: 「Let' s help and share each other」 [助け合い、分かち合い]

村杉一榮 東京北クラブ会長主題: 「元気をだして 楽しく! 」

会長: 村杉一榮 副会長: 磯部成文 書記: 金 秀男 会計: 磯部幸子 担当主事: 小松康広

今月の聖句

ローマの信徒への手紙 5章 3・4節

『わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ』 金 秀男 選

第589回 7月例会プログラム《キックオフ》

日時 2020年7月21日 (火) 13:00~15:00

会場 日本基督教団浅草教会 台東区西浅草3-4-5

受付 会員

卓話「台風19号被災地(長野)支援活動報告及び現況報告」

東京YMCA 会員部・コミュニティーセンター統括

中里 敦様

『東京北クラブ報告』

1. 第一例会プログラム

①第590回 2020年 8月 日程未定

納涼例会の予定

②第591回 2020年9月15日 (火)

卓話・卓題 「未定」

2. 報告及び協議事項

①東京山手クラブは、今期をもって解散することになった。

②東京北ワイズメンクラブ 40周年については、OBの皆さんに声をかけるなど、身内を中心に、できる範囲でお祝いをする予定。



『第588回6月例会報告』 小松 康広会員

日時: 2020年6月16日 (水) 13:00~15:00

場所: 日本基督教団浅草教会 教育館

例会は村杉さんの司会によって、開会点鐘、ワイズソング、聖書・お祈り、会員消息、ニコニコ一言とお茶のひとつとき、YMCA ニュース、YMCA の歌、松島さんの閉会点鐘で閉会、今期を振り返った。3月よりコロナウイルス感染防止の観点から中止となっていた例会をようやく再開した。まだ完全に終息はしていないので無理せず集まれる方のみということであったが、久しぶりの再会に心が温かくなった。小仁恵子さんも久しぶりにご参加くださり喜ばしいことだった。会員消息では金会長より、山根一毅さんが異動で東山荘へ、また、辰馬行男さんが退会の報告があった。新年度は会員7名広義会員5名合計12名でのスタートとなる。続けて今期の活動報告があった。ニコニコでは、皆さんステイホーム中の様子についてのお話しが主であった。外出を控えながらも家に留まるだけではなく健康維持のためウォーキングに励まれたこと、家にいるからこそ、じっくりと取り組むことができたものがある等、その詳細は次号ブリテンにて紹介することになった。乞うご期待ください。トピックスとして、磯部さんのフットマークでは創業以来初めてマスク作りを始めたこと、小仁さんが4月より東京にお戻りになったこと、村杉さんが4月より携帯をスマートフォンにしたことなど楽しいニコニコであった。

出席者: 金、村杉、磯部、松島、神谷、羽田、小仁、小松

7月在籍者	6月出席者	6月出席率	BF等ポイント	ニコニコボックス
会員 7名	会員 6名	66%	2月分	6月分 7,500円
広義会員 5名	広義会員 2名	メイクアップ 名	切手 0g	
合計 12名	メネット 0名		月修正出席率 %	現金 0円
	ビジター 名	本年度累計		
	ゲスト 名		切手 335g	
	合計 8名		現金 72,000円	

十 清泉 YMCA 便り 十 十 十 露崎和奏さん 十 十 十

こんにちは清泉 YMCA 代表の露崎和奏です！現在清泉女子大学は全てオンライン授業で、サークルの活動も対面では禁止となっております。その中で何が出来るかをオンライン上で話し合っております。新入生が加入する時期なのですが、ほぼ SNS のみでの勧誘となっています。現在 1 人が加入し、3 人が加入を考えています。ガーデンパーティや秋に行われる清泉祭が中止に決定したので、清泉 Y 全体とワイズさんとの交流も少なくなってしまう悲しいですが、収まり次第また交流を増やしていきたいと考えています！昨年度は個々で活動することが多かったため、今年度は清泉女子大学 YMCA 全体で活躍していきたいと考えています。今後も東京北ワイズメンズクラブ様と密接に活動していきたいと思っております。今年度もよろしくお願い致します！

**** 興望館便り * * * * * 大江 浩さん * * * ***

「着任のご挨拶と興望館近況報告 – “Door of Hope”」

東京北ワイズの皆様から賜ります興望館へのご支援ご協力に深く感謝いたします。新型コロナウイルスの世界的パンデミックにより、ワイズの活動も休止を余儀なくされるなど困難な状況が続いております。一刻も早い終息を祈っております。この度は、私の就任挨拶を兼ねて興望館の近況報告をさせて頂く次第です。

初めにご挨拶です。私大江は、1980 年より神戸 YMCA (22 年) ⇒横浜 YMCA (4 年) ⇒JOCS/日本キリスト教海外医療協力会(ルーツ：京大 YMCA) (9 年) ⇒日本 YMCA 同盟 (5 年) と計 40 年での YMCA でのキャリアを経て、今年 4 月より社会福祉法人興望館に移りました。7 月からは常務理事(保育園副園長を兼務)を拝命致します。野原健治常務理事は理事長(保育園園長を兼務)に就任されました。貴ワイズとの直接的な繋がりで、私が JOCS の総主事時代、2014 年 10 月の例会で卓話をさせて頂いたことがあります。貴ワイズ並びに東京 Y M C A とも関係の深い興望館の職務に就く機会が与えられ、その不思議な巡り合わせに感慨深い思いが致します。私にとって、子ども・家庭や地域に仕える働きは原点であり、ライフワークです。YMCA の諸活動や国内外支援の現場を通して人間と社会、世界の視点から「共に生きる」ことについて考えさせられてきましたが、今は、興望館にあって地域に根差して人々に仕えることの大切さを日々改めて学ばせて頂いています。次に、興望館の近況報告です。当館にとっては、昨年度は創立 100 周年記念という大きな年でした。ワイズの皆様には、後援会としての支援や記念落語会などの行事でも多大なるご協力を賜りました。改めて心よりお礼を申し上げます。その 100 周年記念の諸事業が一区切りついた直後に、予想外の新型コロナウイルス・クライシスの時代に入り、奇しくも私は 4 月の着任早々からその緊急対応に従事することとなりました。ご承知の通り、興望館は、日本キリスト教婦人矯風会の外国人宣教師によって困窮する女性や子ども達の人權擁護や家庭・地域の社会的救済のために始まったセツルメント団体です。団体名は、「希望を興す = Door of Hope」、旧約聖書の聖句に由来します。興望館は、コロナ禍の緊急事態宣言下でも保育園・学童保育は「特別保育」の形で、また児童養護施設(軽井沢の沓掛学荘)は通常通り活動を続けてまいりました。保育園は 170 名、学童クラブは 124 名、沓掛学荘は 30 名が在籍しています。言わずもがなことですが、保育と養護は“もう一つの生活”の場であり、本質に

おいて「濃厚接触」が必須です。「子どもとの関係性を大切する／ケアする／子どもたちの声を聴き、気遣いの言葉を掛ける／ともに喜び・悲しみに寄り添う／大事な時にハグ(抱擁)をする」・・・そうした愛と慈しみに満ちた行為が、「即ち、感染リスクになる」という、本来の在り方に相反する深いジレンマを、私たちが抱えました。長期間にわたり、日々の保育／養護の営みに合わせて感染予防と熱中症対策を並行して行うことは強い緊張とストレスが伴いますし、今もまだその出口が見えません。命よりも経済中心の政府のコロナ支援からはそのリアリティは見えませんが、社会のセーフティネットとなる興望館の活動現場からその切実な問題性を痛感します。とはいえ、子どもたちの元気に励まされ、子どもたちと向き合い、心を尽くすスタッフやボランティアの献身的な働きぶりに深い感銘を受けつつ救われています。

興望館が創立された約 100 年前はスペイン風邪の世界的流行の時代でした。興望館の活動地域は貧困、不衛生、医療の欠乏にあふれた現場でもあり、命がけの「戦場」のような状況だったことでしょう。その当時のことは知る由もありませんが、スペイン風邪禍の時代に懸命に働いた先達の DNA が今も興望館に受け継がれているように思います。興望館の 5 月の聖句は、「なぜなら、わたしは弱くときにこそ強いからです」(コリント II 12 : 10) です。この聖句は、私は、マイクロサイズのウィルスの脅威にさらされ、「わたし」である一人ひとりが恐怖と不安で震え、他者と距離を置き、Stay Home によって孤立したり、心が「弱く」折れそうになっていること。しかし「わたしたち」は繋がる(新しい繋がり方の工夫は要りますが)ことで、共に生き「強く」なれるのだ、という意味であると理解します。

今、「with コロナ」や「Post コロナ」が論評されていますが、「コロナ」は現在進行形です。私たちは今、対人距離を置くことや対話の機会が奪われることが日常化し、その生き方の変容を求められています。この試練を、知恵と力と祈りを合わせて乗り越えていかなければなりません。そのためにも、私たちはこれからも大切な支援者である東京北ワイズの皆様と共に歩んでいきたいと思っております。それは、興望館の “Door of Hope” に繋がる道だからです。

「だから、私たちは落胆しません」(コリント II 4 : 10)。これは、興望館の保育園日より 5 月号の巻頭言の聖句です。セツルメント運動にある精神、それは「絶望の中にあっても人々は必ず、救える」という希望です。“Door of Hope”への根拠として、その御言葉を心に刻んでいきたいと思っております。

Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y M C A ユース Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y

6 月に入り様々な活動が段階的に再開をしています。例年通り実施できないことも多いですが方法を改めて行う予定です。

1. 「会員芸術祭」今年は東京 YMCA ホームページ上でフォトギャラリーとして開催することになった。(7 月下旬より開催予定)
2. コロナの影響を受ける青少年支援緊急募金「Y M C A 子ども・ユース支援 ポジティブネット募金」を開始した。全国 Y M C A が共に取り組み、3 月末を期限に全国で 3 億円の目標額を掲げている。東京 Y M C A では子どもたちの心身の健康を守る活動、困難を抱える子どもたちを支える活動、学生やユースボランティアの学習等を支える活動に用いていく予定。
3. 夏休み、宿泊形態のキャンプは中止となったが、日帰りや家族を主体にしたキャンプを実施、7 月初旬から募集を開始した。

(小松康広担当主事)

Y Y